

趣味について考える

「あなたの趣味は何ですか？」一度はこの質問を受けた経験があるのではないのでしょうか。人それぞれ多種多様な趣味をもっています。無趣味の方もいらっしゃるでしょう。さまざまだと思います。

さて、私の古くからの知人で、たくさんの趣味をもつ方を二人存じています。そのうちの一人は、尺八、水泳、剣道、少林寺拳法、陶芸、社交ダンス、蕎麦打ち、外国語、……。それが驚くことに、どれも玄人はだしの腕前なのです。もう一人の方も実に多彩です。囲碁、将棋、俳句、読書、家庭菜園、絵画、ピアノ、名所旧跡巡り、……。

古希を過ぎているお二人に共通していることは、いつお会いしても元気で澁刺としていることです。まさしく人生を謳歌しているかのようです。それに引きかえ我が身を顧みると、正直寂しくなります。趣味は無理をしてもつようなものではないと理解してはいるものの、それでも何となく物淋しい気持ちになります。強いて挙げれば、読書や将棋あたりになるのでしょうか。今後は少しでもお二人を見倣い、もっと趣味の範囲を広げていきたいものです。

趣味の定義を辞書で調べてみると、「職業や専門としてではなく、個人が楽しみで愛好していること」（明鏡国語辞典）とあります。よく「趣味と実益を兼ねた仕事」などと言うのもそのためでしょう。

趣味は、長い歳月をかけて一つのことをとことん追究する形のものがある一方で、先程紹介したお二人のように、多趣味でありながらどれも立派な趣味を形成されている方もいます。また、年齢が進むにつれて趣味の傾向が次第に変わっていくようなところがあるように感じます。さらに、自ら実践する趣味があれば、観戦や鑑賞を楽しむといった趣味もあります。スポーツ、芸術、……。

最後に、私が考える「趣味のもつ意義」を3点にまとめてみます。

(1) 人生に張り生きがいをもたらす。潤いのある豊かな人生を送ることができる。

仕事が趣味によって支えられる。 (生きがい)

(2) 体力の向上。心の拠りどころ。ストレスの解消。 (心身の健康)

(3) 共通の趣味を通して多くの人と出会い交流することができる。 (親睦・交流)

趣味を通していろいろな人と出会い交流し、心身に健康がもたらされ、潤いに満ちた豊かな人生を送ることができたとしたら、これほど幸せなことはいないかもしれません。